

連載

湖面の光 湖水の命

琵琶湖諸元
集水域 3,174km²
面積 670.25km²
周り 235.20km
水量 275億m³
最深部 103.58m
平均深さ 41.20m

＜物語＞世紀の水の大事業 ～琵琶湖総合開発†～

高崎 哲郎 (作家)

第7話 「特別措置法案、対立を乗り越え国会提出へ」

琵琶湖総合開発事業は、昭和45年(1970)度の政府予算折衝で、3億円の実施計画調査費(建設省、現国土交通省、以下省庁はすべて当時)と1億円の事業費(水資源開発公団、現水資源機構)が認められたことから、45年度中の着工が確実な情勢となった。だが地元滋賀県はこの巨大プロジェクトに対する政府と県の基本的合意ができていない段階で、基幹事業を強行するのは承服できないとして態度を硬化させた。膠着状態を打開するためには、事務当局の判断を越えた「政治的決断」が不可避な情勢となった。



名月に映える浮御堂 (原稔明氏撮影)

事態を重く見た政府与党の自民党は、45年4月党の政務調査会近畿圏整備委員会の中に琵琶湖総合開発小委員会を設置した。地方の総合開発事業をめぐって小委員会が与党内に設けられるのは異例のことであった。委員には、滋賀・京都・大阪・兵庫各選挙区選出の国会議員に加えて、山内一郎(建設省出身)、上田稔(同)、林田悠紀夫(農林省出身)ら公共事業に精通した参議院議員も参加した。委員長には河川局長・事務次官経験者である山内一郎が就任した。小委員会は上下流の府県から基本の方針や水需要などに関して精力的にヒヤリングを行い、続いて建設、厚生、農林、通産、運輸、自治の関係省から基本方針の報告を受けた。46年度予算折衝の前に、12月小委員会は「琵琶湖総合開発に関する基本的な考え方」を発表した。

「琵琶湖総合開発に関する基本的な考え方」

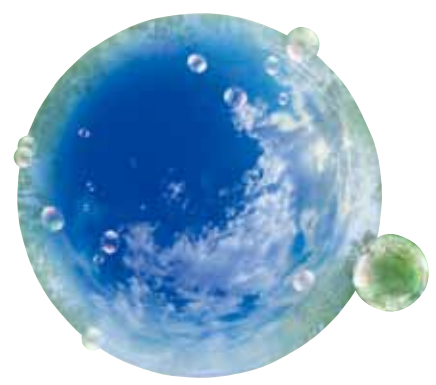
(前文略)

○琵琶湖総合開発事業

開発目標年次を昭和55年(1980)として次の事業を行う。(注:10年間の継続事業)

- ①淀川水系における琵琶湖周辺域の洪水、澁水被害を解消するために必要な治山治水事業および水源

† 国と上下流の府県など関係機関が25年をかけて①琵琶湖の水質と自然環境の保全を図り②洪水・濁水被害の軽減③水資源開発④琵琶湖流域の地域開発を実現した約1兆9,000億円の大プロジェクト



の保全かん養に資する造林事業。

- ②琵琶湖およびその周辺の水資源開発事業。
- ③琵琶湖の水資源を有効に開発利用するために必要な上水・工水・水道や土地改良等の利水事業。
- ④湖周辺地域の自然環境保全施設、道路（周遊道路を含む）、港湾事業。
- ⑤琵琶湖の水質を保全する流域下水道事業。
- ⑥水辺を利用する大規模レクリエーション施設等の事業。

○事業実施に伴う特別財政措置等

- ①国は、事業実施に必要な財源確保に努めるとともに関係地方公共団体の負担軽減について特別の助成措置を講ずる。
- ②下流地域の関係地方公共団体については、開発事業のもたらす広範囲な効果に対し、応分の負担を行うものとする。
- ③水産業等の補償については、将来の生活再建措置等十分な対策を講ずる。

○総合開発事業の推進

琵琶湖総合開発事業は広範多岐にわたる大規模事業である。このため水資源開発公団の充実強化を図るとともに次の事項について検討を行うものとする。

- ①関係各省庁にわたる計画の一元性と総合体的な事業の推進体制。
- ②新しい制度による事業主体の設置。

各省庁間の「縄張り争い」に警告を發し、政府が一体となって取り組む姿勢を強調している。小委員会の結論によって政府は、琵琶湖総合開発の明確な指針（大枠）を与えられ、早速具体案の検討に入った。12月28日、次年度の政府予算案編成にあたって、大蔵・建設・自治・経済企画（経企）の関係省庁の事務次官と近畿圏整備本部次長は「琵琶湖総合開発についての申し合せ」を行った。

「琵琶湖総合開発についての申し合せ」

- ①近畿圏における琵琶湖の役割にかんがみ、琵琶湖及び周辺地域の総合的な開発並びに下流地域の水需要に見合う水資源開発を図るものとする。
- ②このため、総合開発事業の内容、事業実施に伴う国及び下流地域の関係地方公共団体による財源措

置並びに総合開発事業の推進体制等について早急に関係各省庁間において検討するものとする。

- ③下流地域の水需要に見合う水資源開発事業については、上記検討結果に基づき、滋賀県と十分調整のうえ、着工するものとする。

この段階から、総合開発関係の窓口を近畿圏整備本部とすることも確認された。「舞台は政治の場から再び行政の場に移った」（『淡海よ 永遠に』）かに見えた。近畿圏整備本部は近畿地方の社会資本整備を推進するため昭和38年（1963）に総理府内に設置され、同49年に廃止されて国土庁に事務引き継ぎされた。本部長は閣僚が兼務した。

（参考文献『淡海よ 永遠に』、『滋賀県史 昭和編』、大阪府・京都府・兵庫県関連資料、（独）水資源機構関連文献、筑波大学附属図書館所蔵資料）



45年11月、滋賀県知事の任期満了に伴う選挙が行われ、現職野崎欣一郎が再選された。この間、琵琶湖の水質悪化が深刻な社会問題となり、知事選挙でも琵琶湖の保全を開発に優先させる方針が公約に掲げられた。その具体的成果として12月4日に「琵琶湖総合開発に関する基本的態度」が公表された。事業方針として、環境保全、治水、利水の三本柱と共に「モデル事業」として大規模公園都市、流域下水道、臨水性大規模レクリエーション基地の4つを挙げて、新琵琶湖公社の設置、県および市町村等の負担軽減、下流負担、管理体制等を国に要求している。昭和46年も政府関係省庁と近畿圏整備本部それに滋賀県との意見調整が時間に追われるように続いた。法案作成は待ったなしの段階にまで差し掛かったのである。

昭和47年（1972）に入り、琵琶湖総合開発は法案作成に向けて大詰めを迎えた。1月5日、大蔵省は経企庁要求の琵琶湖総合開発事業費を前年のゼロから一挙に25億円（復活折衝で30億円に増額）を内示し、同月9日自民党総務会では特別法案の法制化が採択された。予断を許さない事態に対処するため、滋賀県では同月18日、琵琶湖総合開発東京本部（本部長副知事河内義明以下28人）を東京都千代田区麹町3丁目徳永ビル5階に設置し、副知事を先頭に自民党をはじめ建設省や経企庁など関係省庁との折衝に万全を期する

第7話「特別措置法案、対立を乗り越え国会提出へ」

ことにした。県会議員や市町村議員も大挙して上京し東京本部に陣取った。

同月21日、近畿圏整備本部次長朝日邦夫は総合開発連絡会議幹事会の席上、琵琶湖総合開発法案要綱を初めて公表した。骨子は、①国は滋賀県知事案に基づき総合開発計画を決める。②琵琶湖開発公社を設立する。③滋賀県は施設の維持管理に必要な経費を確保するため琵琶湖管理基金を設けることができる。④国の負担割合について特例を設ける。⑤滋賀県は下流域の利水関係地方公共団体に負担金額の一部負担を求められることができる。との内容であった。滋賀県の構想を大幅に取り入れ、下流負担を明文化した点に特徴があった。この要綱に基づいて同整備本部は全文13条・附則・別表で構成する「琵琶湖総合開発特別措置法案」を作成した。この法案に対して、水資源開発施設を利用する者などの負担（第11条）の企業者負担について通産省から、また琵琶湖開発公社の設置（第12条）について建設省から異論が出され、成文化の過程で手直しされた。滋賀県側は下流負担の義務付け、公社・基金の設置などの表現が抽象的で弱いと指摘し要望書を提出した。その後、内閣総理大臣が計画をつくる上で滋賀県知事に指示することができるとの条項を追加し、「開発公社」設立は自治省が別に構想中の公有地拡大推進法と重複するとの理由で除外された。環境整備を国の特別補助対象事業に含めるなどの修正も行われ、同法案は3月28日閣議決定された。

◇

琵琶湖の総合開発のみをうたったこの特別措置法案は、当初2月14日に閣議決定され2月中旬に国会に提出される予定であった。だが最終局面に至っても国と滋賀県は、利水幅と利水量をめぐる意見が対立したままであった。県は一貫して利水幅マイナス1.5メートルまで、利水量毎秒30立方メートルと主張してきた。淀川水系水資源開発基本計画の改定作業を進める経企庁が、昭和55年の新規水需要毎秒70立方メートル中、琵琶湖から毎秒40立方メートル（利用幅マイナス2メートルまで）を採用したことから、滋賀県の不信感は増大し真正面から対立となった。

「県の要望が入れられぬ限り法案の見送りもやむを得ない」

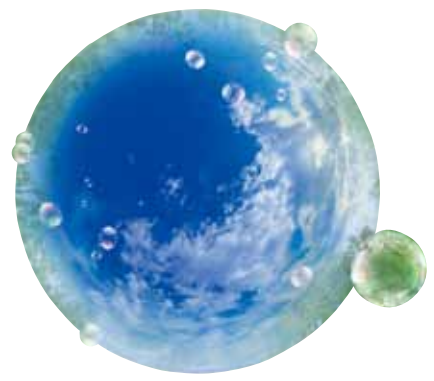
国の対応に不満を募らせる知事野崎は3月8日の記者会見で強硬な姿勢を表明した。それでも大阪府や兵庫県など下流府県は、水位マイナス2メートル、

毎秒40立方メートルの方針に固執した。国会法案提出の最後の閣議とされた3月17日までには双方の歩み寄りの動きは見られず、「法案提出見送りやむなし」との判断も出された。その後、大阪府と滋賀県の非公式の折衝の結果、利水団体側の主導権を握る大阪府が「毎秒40立方メートル、マイナス2メートルが望ましいが、事態を解決するため水位問題を政府自民党に一任する」と歩み寄りを見せた。滋賀県側がこれに同調した結果、自民党小委員会は3月17日、①開発水位は水利権量で毎秒40立方メートルとする。②標準低水位はマイナス1.5メートルとする。③補償対策は異常渇水時に万全を期するため、標準低水位以下0.5メートルについて実施する。④異常渇水時の操作の方針については③の範囲で行うものとし速やかに打ち合わせる。との両者の主張の折衷案を作成した。21日の小委員会では、標準低水位の基準について疑問が出され、③と④の標準低水位以下0.5メートルについては下流府県がはっきりマイナス2メートルと明記すべきであるとしたのに対し、滋賀県側が反発し再度物別れに終わった。解決の糸口は失われたかに見えた。

建設大臣西村英一は斡旋に入り、3月27日大阪府黒田了一・兵庫県坂井時忠・滋賀県野崎欣一郎の3知事と建設省でトップ会談がもたれた。席上、建設大臣西村は、①開発水量は毎秒40立方メートル。②利用低水位（平常時の水位低下）はマイナス1.5メートル。③補償対策や工事は最大水位低下をマイナス2メートルと算定した基準で行う。④異常渇水時の処置については建設大臣が上下流関係者の意見を聞いたうえで決定する。との仲介案を提示した。兵庫県知事坂井はマイナス2メートルの明記を主張したが、説得されて妥協し、ようやく合意の運びとなった。特別負担金については、下流150億円、国150億円、別に国から何らかの形で50億円、計350億円を出す



トップ会談（「毎日新聞」昭和47年3月27日付）



ことが決められた。難航を続けた琵琶湖の水位問題はようやく結着にこぎ着けた。「火ダネを残して一応解決ということになった」(「産経新聞」3月27日付)。



事業費については、47年2月12日、大蔵省が原案を示したが、総額は3837億円で、滋賀県の最終案5259億円とは大きな隔たりがあった。その後、政府は閣議決定の段階で、補助率を引き上げ、湖西下水道し尿処理などを復活して総額4250億円に増額した。その水準が以後も保持され、10か年計画の事業と事業費は衆議院で法案可決となった段階で次のようになった。負担内訳は、水資源開発公団補償費610億円、国費1690億円、滋賀県負担1090億円、受益者負担分454億円、市町村負担422億円(下流負担150億円、補助かさ上げ分は未算入)である。事業費の額では湖周道路建設費と下水道整備が突出していた。同法案は閣議決定をみた上で開会中の国会に提案され、4月21日衆議院建設委員会で建設大臣西村が提案理由の趣旨説明を行い審議に入った。

琵琶湖総合開発計画を理想論で語れば、関西経済の復権を図るためには琵琶湖の自然と水質の保全を図りつつ豊かな水を有効に利用することを目指し(下流の要求)、一方では巨大な貯水能力を生かして洪水災害を軽減すること(水源地の要求)が第一義と考えられた。同時に経済的に後進県であった滋賀県の躍進を願って「近畿は一つ」との認識の下に、上・下流を琵琶湖・淀川で結び「水社会共同体」意識に立脚して立案されたと言えよう。

<付録>我が歴史・文学そぞろ歩き～琵琶湖編～

『芭蕉句集』(日本古典文学大系、岩波書店)は、俳人松尾芭蕉(正保元年(1644)～元禄7年(1694))の俳句(約1000句)を春夏秋冬の季語に分けて紹介し解説している。江戸期を代表する俳聖は近江国と琵琶湖をこよなく愛し、その亡骸を琵琶湖畔からわずかに内陸に入った義仲寺(現大津市馬場)に葬るよう遺言した。(句の解釈は紙面の制限上でできないことをお断りしておく)。

<春>

大津絵の筆のはじめは何仏(元禄4年正月大津での吟)
行春を近江の人とおしみけり(元禄3年志賀辛崎での吟)
辛崎の松は花より臙にて(貞享2年大津での吟)
命二つの中に生たる櫻哉(貞享2年甲賀郡水口での吟)

四方より花吹入れてにほの波(元禄3年近江膳所での吟、「にほ」は水鳥の鳩)

<夏>

海ははれてひえふりのこす五月哉(元禄元年琵琶湖畔での吟)

五月雨に鳩の浮巢を見に行かむ(貞享4年琵琶湖畔での吟)

五月雨にかくれぬものや瀬田の橋(元禄元年瀬田での吟)

此の宿は水鶏もしらぬ扉かな(年次不詳大津での吟)

ほたる見や船頭酔ておぼつか(元禄3年瀬田での吟)

世の夏や湖水にうかぶ波の上(元禄元年琵琶湖上での吟)

<秋>

石山のいしより白し秋のかぜ(元禄2年現石川県の山中での吟)

名月や海にむかへば七小町(元禄3年琵琶湖畔での吟)

名月はふたつ過ぎても瀬田の月(元禄4年瀬田での吟)

三井寺の門たたかばやけふの月(元禄4年義仲寺での吟)

鎖あけて月さしいれよ浮み堂(元禄4年浮御堂での吟)

病む雁の夜さむに落て旅ね哉(元禄3年堅田での吟)

海士の屋は小海老にまじるいとど哉(元禄3年堅田での吟)

<冬>

かくれけり師走の海のかいつぶり(元禄3年草津での吟)

少将のあまのはなしやしがの雪(元禄2年大津での吟)

比良みかみ雪指しわたせ鷺の橋(元禄3年大津での吟)

あられば網代の氷魚を煮て出さん(元禄2年膳所での吟)

石山の石にたばしるあられ哉(元禄2年か3年石山寺での吟)

百年の気色を庭の落葉哉(元禄4年彦根・明照寺での吟)

たふとがる涙やそめて散紅葉(同前) (つづく)。



義仲寺(大津市馬場)